

一般質問

(内容は議員本人が要約しています)



うめもり たかひと
梅森敬仁議員

地域医療の充実と将来計画について

菊池病院と渡邊医院へのしっかりとした支援が必要だ！

早来・追分の共同墓は令和3年9月完成予定

住民に早く周知徹底してほしい！

医療機関への 支援強化を充実

質問 コロナ禍の中で、最近のマスコミ報道などでは「病院経営が赤字になっていいる、医療従事者の方々が疲弊している。地域医療が瀬戸際になっている。」等と連日言われている。安平町は菊池病院と渡邊医院2つになってしまった。不安に思っている住民がたくさんいる。将来を見据えて早期の対応と十分な支援が望まれていると思うが役場の考えは。

答弁 これからの高齢化社会や町の発展のために地域に医療機関を存続させていかなければならないと考えています。

町内の医療機関における今後の課題を共有し、町と医療機関が連携し地域医療

を推進していくために、安平町地域医療体制連携会議を令和2年11月に設置しました。

また、今回のコロナウイルスのような新たな課題の発生に関するものについても当然支援していく考えです。

更に、町としても地域医療を守つていこうとする共通認識を確認させていただいていることから、これまで福祉施設に講じてきた支援を参考に建物・医療機器・医師や医療従事者の確保など運営的な支援についても将来を見据えて考えています。



共同墓 令和3年9月 完成予定

質問 復興計画にもある早来墓地と追分墓地にそれぞれ設置される共同墓が令和3年度の予算に計上されるようです。

待ち望んでいた町民が多数いますので、その概要を早く周知してほしい。

答弁 共同墓については5月下旬着工9月完成予定です。



収容数については、それぞれ650体、募集時期については工事完成前に予定しています。

広報誌・ホームページ・あびらチャンネル・墓地に看板を設置し広く周知します。

いまだ未修理で危険なものや隣接に迷惑が掛かっているものについては共同墓完成後の様子を確認のうえ検討してまいります。

一般質問を終えて

胆振東部地震から2年が経過し、多くの人が望んでいた共同墓の設置完成も近い。

コロナ禍の中で奮闘してくれている地域医療機関への支援方策もきめ細かく推進すべく、令和2年11月に安平町地域医療体制連携会議が設置された。他の福祉施設などと共にこの素早い支援対応が将来しっかりと評価される日が来ると信じている。



はこぎ えいすけ
箱崎英輔議員

将来に向けたインターネット環境の整備のあり方

義務教育学校の現状確認と今後の方向性

質問 高度無線環境整備事業の進行状況は。

答弁 町内全域への光回線を整備すべく準備しているところであり、進捗状況については概ね計画通り進んでいると認識している。

質問 事業が町内全域をカバーできるのはいつか。整備していく上での課題は。

答弁 利用可能時期は令和4年度当初を予定している。課題としては、全道の半分以上の自治体が整備を進めていることから、公共事業と違い安平町の優位性を確保できないことである。

質問 家庭環境のためWiFiの設置ができない家庭などへの配慮は。

答弁 学校現場ではギガスクール構想により1人1台の学習用端末を整備する事業が進められている。また通信環境のない家庭にはポケットWiFi等を契約できる体制はとっている。

質問 公民館、自治会館などへのインターネット環境は。

答弁 学校、公民館においては地域公共ネットワーク

の構築により整備してきたが、一般利用者への解放は今のところできていない。また自治会館等においては農村地区の会館を除き、その施設までは、インターネット環境は整っている。

質問 大きな視点で考えると、移住・定住政策や社会教育を含めた政策の魅力化という意味でも整備を進めていくことが必要だと思うが。

答弁 インターネット環境の基盤整備については、安平町の長年の課題でもあった情報格差の是正が図られるとともに、5GやIoTなど高度無線環境の実現に向けた基盤整備や新型コロナウイルスの感染拡大防止策に向けた整備推進に向けた安平町の魅力化を広く発信することにより子育て世代や若年層の関心を高めることができる。第2次安平町総合計画中期基本計画などの主要施策にも位置付けているところである。その他にもサテライトオフィスやワーケーションの推進なども連動した施策を検討していく。

義務教育学校の現状確認と今後の方向性及び早来地区小学校の選択制や統合は？

質問 令和5年4月から運用予定の義務教育学校について工期の遅れや総工費の変更などはないのか。

答弁 工期の遅れは今のところない、総工費については、学校の解体費が大幅に当初の試算を超えたことなどさまさま要因はあるが、予定の総工費に収めていることと協議している。

質問 旧早来中学校を解体せず倉庫としての活用やスクールのバス倉庫・郷土資料館の移転の考えはないか。

答弁 旧早来中学校の活用は、危険箇所も残ることから利活用は考えていない。解体についてはアスベスト処理の関係で2億7000万円以上にも上り、かつ、今回の事業に併せて解体してもしなくても補助金の額が変わらないことが判明したので、解体時期を先延ば

しするという考え方もある。バスの車庫や資料館については、費用や移転先の場所の確保が難しく、現時点では学校の再建を最優先で考えていきたい。

質問 遠浅・安平小学校の選択制や統合についての決断や運用開始時期は。

答弁 学校選択制の導入は行わない方針である。保護者などのアンケート結果から、仮に導入すると安平・遠浅小学校の児童数は現在の半数以下となることからわかった。方針決定は、今年度一杯に打ち出すことを一つの目標としたい。

質問 新しい学校を核とした地域や団体、学校との連携や協働について安平町としての位置づけは。

答弁 「子ども達が世界と出会う場所」ということで、学校が小さな町や、大きな家であったり大人を含めて新しい学校の中で育つ、そういう場所を作っていくことで新しいコミュニティの創出、復興のシンボルとして学校自体が成り得ると考えている。



く どうしゅういち
工藤秀一議員

防犯灯（町内街灯）整備について

- ・街灯不足により下校時の通学路が暗く防犯上危険である。
- ・農村地域は特に街灯が少ないので住居周辺は防犯上必要と思う。

3歳児健診における弱視早期発見について

- ・フオトスクリーナーを導入し屈折異常を早期発見し早期治療要す。

防犯灯整備

質問 犯罪発生危険性が高くなる夜に暗がり発生させない、夜道での歩行者の安全確保は最低限必要と思う。設置基準はどのようになっているか。また特に通学路は早急に見直しが必要と思うが考えを伺う。

答弁 現場状況や予算状況、早急に対応できるものや年次計画によるなどあるが、関係者と協議を行い設置検討する。設置は要望地域の現場状況などにより関係者と協議し決めていることから基準はない。

質問 警察庁の「安全安心まちづくり推進要綱」には夜間において人の行動を確認できる防犯灯・街路灯により必要な照度を確保することとある。照度の基準が必要ではないか。

答弁 基準は今後検討する。全町に基準を設けるのは難しい。市街地や通学路部分の限定が考えられる。

3歳児健診 視力検査

質問 見る力が発達するこの時期は治療を開始するか否か重要な節目。現状見逃しはないか。また視力の他、近視・遠視・乱視・不同視・斜視・瞳孔不動等を見つかる機会になるため屈折異常検査が重要と思うが。

答弁 絵指標検査セットを家庭で検査し、健診時その結果と医師の診断。この方法で過去5年間で4人が早期発見。見逃しはないと思う。出生時、3歳、5歳、就学時に段階に応じた視覚に関する啓発と検査実施。

質問 日本小児眼科学会では視力検査とフオトスクリーナーでの屈折検査を推奨。事例では治療が必要とされた14人中9人がこれを使わなければ見つからないケース。導入の考えは。

答弁 フオトスクリーナー検査の有効性は認識。しかし購入費用等課題がある。町の実績から当面現状の方法で問題ないと思っている。

災害時の 情報共有

質問 胆振東部地震で停電になり行政無線や広報車のアナウンスが聞こえない、役場情報が伝わらないとの住民の不安から戸別受信器の設置について進捗を伺う。

答弁 現在町で設置のMCA無線システムに対応した戸別受信機が無く、既存システム活用は財政負担等の様々な課題がこの間の調査で判明した。これらの事から引き続き研究検討と共に様々な情報伝達体制の強化を図っていく。

質問 内閣府主導で開発の基盤的防災情報流通ネットワーク情報を共有できるようシステムの改修が必要と思うが見解を伺う。

答弁 町独自のシステムは無い。道の総合行政ネットワークや道等と情報共有を図っている。現在は来年4月の運用開始でシステム改修を行っている。今後このシステムを活用し迅速且つ的確

移住定住施策

な情報収集や伝達体制の維持強化に努める。

質問 安平町は町外からの通勤者が多く夜間より昼間人口が多い。これは人口減少を抑える課題と思う。2018年6月議会の答弁で空き家対策と絡め割安な住宅を提供し町外通勤者を受け入れたい。そのPRをホームページ以外でも検討とあった。その進捗は。

答弁 安平町に住んでもらうためのアプローチや情報発信について検討のため、町内企業に調査を実施。486名から回答があり、約半数が子育て世代や若者。千歳・苫小牧市からが大半。ターゲットを絞り込み施策を講じていく考え。企業と連携し取り組む予定。

質問 企業の休憩室等に広報誌や、住宅（公住）情報・イベント情報を掲示したり置かせてもらってはどうか。

答弁 ご協力いただける範囲で情報発信したい。



よし おか まさ あき
吉岡政昭議員

早来工営の産業廃棄物最終処分場の 第7期計画に対する町の対応について^{ただ}質す

新規参入企業による産業廃棄物場建設町の
対応について質す。

「核のゴミ」と 「産廃のゴミ」の 本質的違いは何か

質問 過日の新聞、テレビの報道によると寿都町と神恵内村で原子力発電所からの「核のゴミ」の最終処分場選定の文献調査を受け入れると伝えられている。原発から出る「核のゴミ」と産業廃棄物のゴミと本質的違いは何か。

答弁 「核のゴミ」とは、原子力発電所において使用済みとなった核燃料を再処理してウランやプルトニウムを回収すると放射能レベルの高い廃液が残る。この廃液を溶かしたガラスと混ぜ合わせ固めて固化体にします。このガラス固化体を「高

レベル放射性廃棄物と言います。産業廃棄物は、法律において事業活動に伴って生じた燃えがら、汚泥、廃油など政令で定める廃棄物のことであり、発生の過程は、処分の方法も異なっており本質的に違うものと認識している。

質問 早来工営は、データを改ざんしたり、ごまかしたりした事実はないか。

答弁 その辺りについては、しっかりとやっているものと認識している。

質問 率直に言って認識不足だ。現在、安平町南部地区環境問題対策協議会、いわゆる「環対協」という組織がある。この組織は、どんな経過で結成されたのか。

答弁 昭和60年に早来工営が1期目の最終処分場を稼働して以来、悪臭など様々な問題が起こった為、最終処分場の公害を危惧した近隣八自治会によって「心身ともに健康で快適な環境を守ることを目的」として平成3年10月に設立されたものです。

質問 早来工営が受け入れ

ている産業廃棄物の総量と道外から持ち込んでいる産業廃棄物の量はいくらか。

答弁 令和元年度の受入量の総量は、3万2670・07トンで、道外からの受け入れ量は1490・64トンです。

質問 平成28年3月31日付で「安平町産業廃棄物処理施設設置等に関する指導要綱」を作ったが、流れと内容を見ると建設を予定していたリブロックを排除するための要綱に見える。これは、早来工営の第7期の計画にも適用するのか。

答弁 新規参入以外（早来工営第7期）にも適用するものだ。

質問 道は、リブロックの処分場建設の認可を出したあと「今後の対応」として、安平町に公害防止協定締結の協議を求めているが、町はあくまで、協定の協議も行わない考えなのか。

答弁 協定の協議以前に、町と事業者との間に現在も信頼関係が築けていない。これまでと同様の対応となる。

一般質問を終えて

一般質問後の「不満足感」を今回も強く感じた。繰り返されて来た「失敗感」「不満足感」の原因を遅ればせながら今回気づいた。その原因は、自分の準備した原稿の「順番・流れ」にこだわり「答弁」に対し臨機応変に対応していなかったことだ。

今回も「早来工営はデータを改ざんしているか否か」と認識を問うた時の「答弁」（その辺についてははっきりやっていると）は、追求すべき大事な論点であったのだ。「認識不足だ。後ほど具体的に申し上げます」では、「論戦」にならない。まずあの場面では、答弁の根拠を質すべきだったし、その上で「この事実を知っているか」と一つ一つ違反事例を示し「認識不足」を質すべきだったのだ。「論戦」とは「戦い」なのだ。予定した順番・流れ通りに進むわけがなかったのだ。



く どう たか お
工藤隆男議員

回遊人口の増加は安心安全な施設

- ・ポッポらんどのおわわわドーム
- ・ポッポらんどのミニSLの運行

地域コミュニティの必要性

道の駅の裏側と
野球場の間に来る
「ポッポらんど」の
安全性と

不安箇所について

質問 ふわふわドームの横の利用説明の看板二枚は子供達が読めますか。直ぐ横に貨物用車掌車と貨物車が野ざらしで連結されておりドームとの仕切りがないため貨物車の下を通り抜け出来る状態で危険を感じる。

回答 文字を読めない子供もおり親御さんに付いて遊んでいただき、線路に入る危険性の話なので教育委員会と相談し対策を考える。

質問 通年利用のソリ滑り場だが当初に比べ滑走距離が短く危険で手直しが必要ではないか。

回答 勾配が急な部分があり距離的にも短く危険性も感じられ、冬の滑り台が使えるシーズンに合わせて勾配調整を行いフェンスを張るか安全な防護的なものを施工していきたい。

質問 ミニSLの試運転はいつを予定したのか。走行レールに並行する遊歩道が子供達が走ります。緩衝帯がなければSLは急には止まれません。安全対策が必要と考えます。

回答 ミニSLの運行には細心の注意が必要ですが安全性をより高める為にレールの外側にチエーンポール柵を設置する予定で乗降口が必要で開口部も設けます。

質問 ミニSLの転車台と車庫の工事中を見て来ましたが長さ5・4mの車庫です。ミニSLと客車は二線が入庫となります。SLの火室の火を落としているのでミニSLは車庫のあとにウインチを設置してけん引する事になるがお願いしたい。車庫の結露が多く防止策と防水シートを腰まで付けていただきたい。

回答 結露防止、車庫の関係について、設備的なもの施設的なものがあり新設のものとなりますが当初想定として認識がありますので実施団体からの相談に対し教育委員会として支援する。

道の駅がステーションが出来てから多くの人が来てお客様が買い物に休憩にと土日は増えています

質問 道の駅のお客様が増えると同時に追分市街3号線6号線では車の通行量が増え危険な目に遭ったとの話を聞きますが対策は。

回答 交通安全的なルールを守らないモラルの問題で追分中学校前のカラー舗装化や道路をスピードを出さないようにポコポコにするなど実情に合わせた対策を見極めて考えたい。市街地部分の町道には看板を設置して誘導していきます。

質問 道の駅の車両の出入口ですが土日祝日は込み合

い誘導係員もいるのですがいつも見えていて心配になります。事故が起こるのではと思っています。

回答 神社側と国道側からには町道部分に原則ドットを施工を行い現在対応しています。

質問 緑が丘美園線ですが道の駅に向かう車両も多く道脇には病院・公民館・通学道路であり心配も多い一枚の看板でも必要と考える。

回答 効果的な文言を掲載した形の啓発看板を考えていきたい。

人口減少と高齢化、活動の衰退が心配

質問 令和2年1月1日現在の世帯数と内自治会町内会等の加入率と全戸配布の配布物等はどの様に行っているのか。

回答 町全体で4068世帯の内3257世帯が自治会町内会に加入し80・1%の加入率になっている。配布物は自治会町内会の善意によって加入者に配布して

います。加入されていない方もいて地域コミュニティの必要性の理解を求めて広くお願いしています。

質問 老人クラブの活動が停滞している起因を広く話し合う事が必要。

回答 平成26年から20%の減少で組織会員と相談と問題点を共用しながら進めていければと思っています。

総務常任委員会

所管事務調査

10月19日

胆振管内町村議会議長会から表彰状

議員10年以上

小笠原議員が、10年以上の永きにわたり、議会議員として職務に精励し、地域の振興発展に貢献されたことに対し、胆振管内町村議会議長会から表彰され、第13回定例議会開会前に牧田議長から表彰状が伝達されました。



検診項目の数と町財政負担のバランス 受診率の現状と課題を調査

① 検診項目の数と町財政負担のバランスについて
健康福祉課池田参事、玉井課長補佐に出席願ひ、国の検診項目を踏まえ町独自の検査項目や年齢要件等の違いなどを含めた説明を受け、その後検診業務委託料について決算をもとに説明を受けた。

② 受診率の現状と課題と今後の対策について
近隣の町の受診率との比較や医療情報の連携についての説明を受け今後の受診率向上のための検査結果の取り扱いや課題についての調査を行い終了した。

☆各委員会活動

全員協議会	11月6日
全員協議会	11月27日
議会運営委員会	12月11日
第1回臨時議会	1月14日
全員協議会	1月14日
広報特別委員会	1月18日

議長交際費の公表
10月から12月の支出はありませぬ
令和2年度支出累計
1,980円

【議会事務局からのお願い】

議長宛の文書や案内状などは、議長の公務日程上の調整をする必要がありますので、議会事務局に送付くださるようお願いいたします。

議会等開会中は各家庭のあびらチャンネル(11チャンネル)と総合庁舎と総合支所、町民センター、追分公民館といった各施設で生放送を実施しています。

また、インターネットでは、議会開催時のライブ配信及び以前の録画配信も行っています。

次の定例会は3月上旬頃です。

あとがき

令和3年の年明けは、昨年来収まりを見せないコロナ禍が続いています。過去に経験した感染症の枠を超えて感染の被害が拡大し、人命以外にも世界経済の停滞が危惧される事態となってきました。議会では感染防止のため手指消毒など基本的対策は勿論、多数での不急な接触を回避するとともに、会議形態は密接を避け換気を行うなど対応を行っています。

今任期もあと1年を残す時期、議会活動も仕上げの年となります。コロナ禍の中、地震災害の復旧、復興はもとより安平町の自治運営に支障が出ぬように活動を行っていかねばと思います。

今年も議会広報を通して様々な情報をお伝えしますのでよろしくお願ひいたします。

議会広報特別委員会

委員 多田 政拓